



駿河富士郡大宮所
 角田清三郎殿
 平安



紙

大阪北区本花
 鶴三郎

送歌人

六月初三

小包今朝着平紙有見所
 喜泪書中あり
 書甲件心配は凡而
 後便あり
 六月四日朝

断
 戸共
 文虫子
 朝
 早



是の一人とくも昔も今も

至る時は毎ちかゝる憤慨の情を備

て轉住の題を實おせられは成

は意味の斜 い 一人を考ふれ

其衝の著るれど困難を感おるを

凌ぎ渉るる技倆之 を 集する

是の孤獨的生活の数年及び女

近來の情感の を 片々のあ

力 の 酒 の 為 に

リ 帰 の 來 は 慎 み 居 れ り 稍 の 頭 の

取 は 面 白 き 處 に 非 ず 強 し 見 也

故 に 一 棧 あ げ ん と 思 ふ あり 是 の

さうして吾生流す病も又区あるが
故に一旗あやんと思ふあり是れ
故郷を在り詩人たるは尤も好き
時ある生隊を利用すべし人は満
足ある時は失敗の時なり是れ
郷あるは不満は後を於し痛き
不満は此故郷音あるべしと
他定す
了水忍らくは再び不満足
なると
取郷を在り時を
故郷を在り時を
時を来りあるべし
七年詩を作らしておた子費した
了一年は予の運命を支配せり
予は今を於し痛恨す死な
らば
後又予の運命を支配せり
降は予の運命を支配せり
れど時は一あり且て必要條件
の回所を自ら成しとして
読書は予の運命を支配せり
書札抽して読書は必要とな
所半の徳をあるべし目的ありし
流むし目的なくは流法ありし

言前... 所年... 流... 書中... 今意... 真理... 精神... 或... 之... の... 了... 今

今夜凡雨出... 感概... 至れり

費用... 可敷... 日... 其... 母... 人... 通...

通... 通... 通...

人生万の体と見えながら却して
通ぶ生かす外のものを撰物とし
せば海内を遊ぶと喜ぶを扱
せよ一人一人して天職をとり
るべきなりしなりは愛しむ
しつかりしなりは愛しむ
（たのみのなるも見えぬなり）
予は半生既の遊ぶ幾多の詩境
を経たり是は今詩境の中
にあり望むらくは女流の爲
に此境の遊ぶを認る莫ん
語なきに後にはまたいはず

六月廿三日

勤一郎

天聲